

2016年度

自己点検・評価報告書

— 各部署の活動状況 —

山口芸術短期大学
自己点検・評価委員会
自己点検・評価実施委員会

保育学科

▷幼児教育コース

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 学生の学修意識の向上と就職活動支援のために保護者会の充実を図る。
2. カリキュラム・マップを履修指導に生かす。
3. 介護福祉コースとの連携を強化し、学科としての一体感を深める。
4. 保育職の魅力の発信と、質の高い保育者志望学生の確保に努める。
5. 「子ども総合研究」の充実を図り、学生の表現力や協働意識を高める。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 保護者会の充実を図る。	2年生全員に対して、保護者を交えた三者面談を実施し、学生や保護者の疑問点の解消や就職活動への意識を高めることに有効であった。	4
	2 履修指導においてカリキュラム・マップを活用する。	カリキュラム・マップを年度初めのオリエンテーションで全員に配布し、科目ごとのディプロマ・ポリシーとの関係や、2年間の学びを意識できるようにした。しかし、その他にはカリキュラム・マップを目にする機会がなく、やや一過性のものとなってしまった感がある。	3
	3 介護福祉コースとの連携を強化する。	学科会議及び学科教授会を充実させ、各コースの現状や課題等を共有し、一体となって介護福祉コース改革に取り組んだ。	4
	4 保育職の魅力の発信と、質の高い保育者志望学生の確保に努める。	「保育者の魅力発見セミナー」を山口県保育協会、山口県私立幼稚園協会、山口県保育士養成校連絡協議会と共に開催した。	3
	5 「子ども総合研究」を充実させる。	「子ども総合研究」のリハーサルや発表をグループが相互見学し、表現力の向上を図った。また、グループでの発表や役割分担、発表会運営を通じて、協働意識を高めた。	4

	根拠資料の名称
根拠資料	1 保護者会事前配布資料
	2 カリキュラム・マップ
	3 学科会議資料
	4 保育者の魅力発見セミナー要項及び報告書
	5 「子ども総合研究」アンケート結果、チラシ、記録映像等

3 来年度の取組事項

1. 新しいディプロマ・ポリシーにもとづく養成課程を構築する。
2. ブランド力を恒久的に維持するための現状分析と点検評価、それにもとづく改革を推進する。
3. 再課程認定への対応をスムーズに行う。
4. 学生やその保護者との信頼関係を構築、強化する。
5. 教職員が一体となった学生指導により、各学生の長所を伸ばす。

保育学科

▷介護福祉コース

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 平成28年度入学生から国家試験受験となることから、2年間の養成課程を見直し、指導の徹底を図っていく。
2. 利用者の尊厳を守るために介護実習においては、求められる人材養成をめざし、介護の原則(利用者本位・自立支援・自己選択、自己決定・生活の継続性)を意識した教育を続けていく。
3. 介護福祉士としての質の向上を目指すために卒業後の教育(リカレント教育)を導入する。
4. 学生が利用者理解を深めることができる授業づくりを展開するために、教科間や教員間の連携を強化する。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 国家試験を見通した指導の徹底を図る。	これまでの過去の「国家試験問題集」を参考にして、内容を吟味しながら、計画的に指導を行っている。	3
	2 求められる人材養成を目指した教育を実践する。	利用者主体、自己選択・自己決定、自立支援など、個々の利用者の尊厳を守ることにつながるよう、介護の原則を意識した実習に取り組むようにした。	4
	3 リカレント教育を導入する。	卒業生に『事例研究・介護の研究発表会』の案内をするとともに、現場の仕事の振り返りや課題等について意見交換や研究を深めるようにした。	3
	4 教員間の連携を強化する。	「介護レクリエーション理論・実技」において、「介護実習指導」や「介護の研究」との連携を大切にしながら、スムーズな実習ができるように、授業展開の工夫・改善を行った。	3
	◇ 芸術科目を活かした授業を展開する。	今年度は音楽の効果について、介護の研究で取り組むことにより、芸術を通して利用者理解に努めた。また、各授業間の連携を図ることができた。	3

	根拠資料の名称
根拠資料	1 介護福祉士国家試験問題集、全国共通試験問題集
	2 事例研究冊子
	3 事例研究&介護の研究発表会への参加案内文
	4 介護の研究冊子
	5 カリキュラム・マップ、シラバス

3 来年度の取組事項

1. 国家試験受験に向けて、2年間の効果的な授業の流れを考慮して、指導の徹底を図る。
2. 利用者の尊厳を守るために介護実習においては、求められる人材養成をめざし、介護の原則(利用者本位、自立支援・自己選択、自己決定など)を意識した教育を続けていく。
3. 介護福祉士としての質の向上を目指すために、教養科目を充実させる。
4. 学生の表現力やコミュニケーション力を身に付けるために、芸術系科目を充実させるとともに、教職員間の連携強化を図る。

芸術表現学科

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 各教科でアクティブラーニングに取り組み、学生の主体的な学びを推進する。特に、新たに開講する「空間芸術表現演習Ⅰ～Ⅳ」は、芸術表現学科の全員に受講させ、学生中心に企画・運営などアクティブラーニングに積極的に取り組む。
2. 「社会人基礎」「ビジネスと法」「実務英語」などキャリア、ビジネス関係の科目を新設し、実践的な職業能力や技能の習得を推進する。
3. 教職員連携を強化し、学生へのきめ細かな指導を行う。充実した学校生活の実現と将来への明確な展望を持たせる。
4. 電子オルガンコンクールで、高校生の参加を増やす。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 各科目でアクティブラーニングによる授業に積極的に取り組む。	科目の特性により、プレゼンテーションやディベート、レポート課題、演習など取り入れた授業を実施。空間芸術表現演習は、グループワークで作品を完成。	3
	2 実践的な職業能力や技能の習得を推進する。	「社会人基礎」を必修科目にし、資格取得に積極的に挑戦させている。各教科でコミュニケーション能力をはじめ社会人としての基礎力の育成に努めている。	4
	3 教職員の連携を強化する。	毎月の学科会議で共通理解を図っているが、各人が抱える業務が多過ぎ連携のための時間が不足。他の部署との連携も兼務が多く十分ではなかった。	3
	3 学生へのきめ細かな指導を行う。	チューター制が十分機能せず、学生指導が徹底しなかった。就職支援については、就職支援室の積極的な働きもあって成果を上げてきた。	3
	4 電子オルガンコンクールへの高校生の参加数を増やす。	2名の参加であり、増やすことが出来なかった。引き続き広報に努め、参加者を増やし音楽コースの入学者を確保していくことが必要である。	2

	根拠資料の名称
根拠資料	1 各科目のシラバス、空間芸術表現演習発表のパンフレット等
	2 資格取得状況、シラバス
	3 学科会議レジュメ、学科の役割分担表
	4 チューターの時間、支援の記録
	5 募集のリーフレット、電子オルガンプログラム

3 来年度の取組事項

1. 社会の変化や保護者・生徒のニーズに応え、コースやカリキュラムを改善する。
2. 各科目でディプロマポリシーの徹底を図り、伸ばす能力を明確にする。
3. 組織が円滑に機能するよう、業務の精選と効率化を図る。
4. チューター制を有効に活用し学生の個別指導を徹底する。
5. 地域との連携を図り、地域の活性化に寄与する。
6. アクティブラーニングによる授業を実施し、学生の主体的な学びを推進する。

学生部

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

全学的なマネジメント力を強化する。

1. 組織体制を強化する。
2. 業務運営力を強化する。
3. 教職員の研修(FD・SD、OJT)を充実させる。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 組織体制の強化を図る。	平成28年度から副学長（併学生部長）を採用し、組織を強化した。	4
	2 業務運営力の強化を図る。	本学研究助成規程の見直し並びに学長裁量経費を新設し、教育・研究体制を充実させた。 本学に客員教授及び客員准教授選考規程を制定し、教育の充実を図った（今年度准教授2名）。 本学の研究力強化のため、平成28年度私立大学研究ブランディング事業の申請に取り組み文部科学省へ提出した（芸術表現学科）。	3
	3 教職員の研修（FD・SD、OJT）を充実させる。	大学関連携共同教育事業の内、防災・減災をテーマとした研修に本学職員をSD研修として参加し、本学自然災害危機管理に資することができた。	3

	根拠資料の名称
根拠資料	1 辞令交付決裁書
	2 研究助成規程、客員教授及び客員准教授選考規程、協定書
	3 実施伺

3 来年度の取組事項

1. 更なる組織の機能性を発揮させるため事務組織の再編を実施する。
2. 事務組織を充実するため、事務職員を採用する。
3. 大学の機能強化を推進するため、芸術表現学科の教育課程の見直しを図る。

学生部

▷進路支援センター(保育職)

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 就職すること、社会人になることについてのイメージをしっかりと持ち、自分の将来について主体的に取り組むよう指導する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価	
今年度の取組	1	1年次より就職に対しての見通しを持つよう指導する。	1年4月：就職希望先などを記入する就職個人票を作成。9月：保護者会で就職についての話をする。希望者には三者面談を行う。1年後期には保育職研究として、3回の講座（①就職先について②小論文③一般教養）を設けた。2年6月：全学生・保護者を対象に三者面談を行う。	4
	◇	就職試験対策として小論文の指導を行う。	1年後期1回、2年前期1回の小論文指導を行った。学生の書いた小論文は、全教員（1年はチューター、2年は就職地区担当者）が分担して添削と個人指導を行った。	4
	◇	公務員対策を充実させる。	担当の教員をおき時間割に前期・後期とも毎週1回（90分）の公務員試験対策講座を組み込んで、1年のうちから参加できるようにした。3回の公立保育職模擬試験の実施や面接練習などを行い、4名合格という良い結果を出した。	4
	◇	就職試験に必要な書類作成を個人指導する。	履歴書等の必要書類の書き方について、地区担当者による個人指導を行った。	4
	◇	教養を高めるための取組みを行う。	漢字、4字熟語、同音異義語などの国語力、および保育に関する教養を身につけさせるためドリル問題集を作成し、毎時間範囲を決めて確認テストを実施した。	3

	根拠資料の名称
根拠資料	1 1年チューター後期予定表
	2 進路指導計画表
	3 H28年度前後期時間割
	4 進路指導計画表・2016就職ガイドブック
	5 ドリル問題集（進路指導【漢字・教養問題集】）

3 来年度の取組事項

1. 進路について主体的に取り組むよう働きかける。
2. 個別指導を徹底する。
3. 途中で挫折しないよう公務員希望者への支援に力を入れる。

学生部

▷進路支援センター(介護職)

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 見学実習を行う。
2. 卒業時にプラスαとしての資格取得を行う。
3. 実習先が就職につながるように面談等を細かく行う。
4. 基本的な生活習慣を身につけるように指導を行う。
5. 就職支援室との連携を図る。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 見学実習を行う。	後期、実習施設以外の施設で見学実習を行った。介護福祉士として働く現場の理解や、そこで暮らす入居者理解を深めることができた。見学実習の回数は少なかった。	3
	2 卒業時にプラスαとしての資格取得を行う。	同行援護従業者やアクティビティ・ワーカー資格取得を行った。これは卒業時にプラスαとしての付加価値となり就職後の支援に役立つものである	4
	3 実習先が就職につながるように面談等を細かく行う。	おりに触れ、どのような施設や事業所で働きたいかを聞くことや保護者会を利用することで学生の希望を聞くこと、就職に関する情報を施設訪問において聞くことなどを行ったが、希望する施設全てには聞けなかった。	3
	4 基本的な生活習慣を身につけるように指導を行う。	実習指導とリンクさせて、生活支援を行う介護福祉士としての、身だしなみ、礼儀等の指導を行ったが、個別の指導が時間の関係上十分にできなかった。	3
	5 就職支援室との連携を図る。	就職支援室に資格取得を行わない学生を中心に支援をお願いした。情報をこまめに提供していただいたことで、現状の状態が把握できたが、介護福祉コースからの情報提供が少なかった。	3

	根拠資料の名称
根拠資料	1 シラバス・資格証明書
	2 就職希望表
	3 実習要綱・シラバス

3 来年度の取組事項

1. 見学実習を行う。
2. 卒業時にプラスαとしての資格取得を行う。
3. 実習先が就職につながるように面談等を細かく行う。
4. 基本的な生活習慣を身につけるように指導を行う。
5. 就職支援室との連携を図る。

学生部

▷進路支援センター(一般職)

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 4月・5月を就職支援室訪問月間とし、学生の意識を高めて就職活動の活発化を図る。
2. 3月の企業合同説明会に、1年次生が積極的に参加するよう働きかける。
3. 就職活動が低調な学生への個別指導を充実させ、就職につなげる。
4. 履歴書、エントリーシートの書き方の個別指導を徹底する。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 就職支援室の利用者数を増やす。	入学式後のオリエンテーションをはじめ様々な機会を通して就職支援室の利用を働きかけたところ、1年次から就職支援室を利用する学生が大幅に増えた。就職支援室の活用を働きかけた成果があり、2年の一般就職希望者全員が就職支援室を利用した。	4
	2 1年次生からの就職活動を促す。	1年次生に、1月開催の合同説明会から参加するよう働きかけたところ、約3分の2の学生が参加した。2年次生の就職内定者が、自身の就職活動について1年次生対象に話す機会を設けた。	4
	3 就職活動が低調な学生への個別指導を充実させる。	就労意欲が低い学生に、電話による就職支援室訪問の働きかけや企業合同説明会への参加を促した。能力や適性を見極めてマッチングを図るため、一人ひとりと丁寧な面談を行った。	3
	◇ 学生就職支援委員会の機能を充実させる。	学生就職支援委員会を3回開催し、就職に関する情報を共有するとともに、就職支援体制の改善について協議した。	4
	◇ 企業の要望や意見を聞くため、アンケートを実施する。	9月に卒業生の就職先企業40社を対象にアンケートを実施し、意見聴取できた。アンケートの分析結果を学生就職支援委員会だけでなく、運営委員会や教授会でも報告し、課題等を学内で共有した。	4

	根拠資料の名称
根拠資料	1 平成28年度就職相談室利用件数 (年度別・学科・コース別)
	2 ふるさと山口就職ガイダンス (山口県若者就職支援センター) パンフレット
	3 個別就職相談カード (就職支援室にて保管)
	4 学生就職支援委員会報告書
	5 アンケート

3 来年度の取組事項

1. 企業との連携強化月間を設定し、新卒者の激励と雇用主側の要望を聞くことを目的に就職先企業を訪問する。
2. キャリア支援の体系化を図るため、1年次生対象のマナー講座、2年次生対象の就職支援講座を実施する。
3. 「就職ガイドブック」の見直しを図り、活用を促進する。
4. 卒業生対象の就労支援に係る相談体制を整備する。

学生部

▷教務課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 3つのポリシーについての全学的な見直しを行う。
2. 授業アンケートの実施後の活用について、FD・SD委員会との合同で授業参観、意見発表等、教職員のFD・SD活動に繋げる。
3. 成績、学生生活支援、卒業後の動向まで一貫して支援できるシステムの導入により、学生一人一人が主体的に学び活動を促す環境を構築し、社会から求められる人材の養成に取り組む。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1	3つのポリシーを見直す。 学部で検討した。学生にわかりやすく、カリキュラムマップとの整合性、H. 29、4月より改正のため、再度、ワーキング委員会を立ち上げ、検討している。	4
	2	授業アンケート実施方法を見直す。 全科目から抽出した科目の実施とし、学生への負担軽減と記名式による責任ある回答を求めた。	4
		授業アンケート実施後の活用方法として、教職員のFD・SD活動に繋げるようにする。 授業アンケート集計結果後、担当教員から授業改善報告書を提出。FD・SD委員会との連携までいかなかったが、報告書というかたちで、見直しをしていただいた。	3
	3	教務電算システムの更新を検討する。 システムの更新はしているものの、十分とはいえない。学生の主体的に学ぶ環境の整備はでき、学生が活用している。	4
	◇	シラバスの第三者チェックを実施する。 教務委員会委員において実施した。様式、記入漏れはなかったが、学習成果や課程認定のチェック内容については、専門分野の協力が必要である。	2

	根拠資料の名称
根拠資料	1 学科のカリキュラムマップ、3つのポリシー、ホームページ
	2 授業アンケート実施案内文、集計表、保管庫
	3 同上
	4 学長より教務委員会へ委託、シラバス作成の教員へのお願い文、チェック集計表、保管庫

3 来年度の取組事項

1. 教職委員会と教務委員会規程内容の整理を行う。
2. FD・SD委員会との連携を強化する。
3. 学習成果の根拠資料を整える。
4. 成績評価とGPA評価を考える。

学生部

▷教務課/FD・SD委員会

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. FD・SD研修会、年間3回程度実施する。
2. 全学的な取組みとして授業の相互参観を実施する。
3. 事務職員のSD勉強会を開催する。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 FD・SD研修会の開催	FD・SD研修会の実施 数多くの研修会を開催し、教職員の資質能力の向上に役立てることができた。平成28年度実施の研修会は以下のとおりである。 2016. 4. 20, 27 平成28年度新任者研修会 2016. 4. 18 第一回教育研究活動に関する学内研修会 2016. 5. 30 SD研修会（人ごとではない情報漏洩） 2016. 6. 24 FDS研修会（ハラスメント研修会） 2016. 7. 29 第二回教育研究活動に関する学内研修会 2016. 8. 10 FDS研修会（学習達成度の評価および可視化を考える） 2017. 2. 24 FDS研修会（学生の学びを高める大学授業の在り方、参加者47名） 2017. 9. 29 SD研修会（学校法人会計・決算書・財務分析について）	4
	2 FD活動 授業の相互参観	2016年9月9日、FD・SD委員会にて承認され、実施を呼びかけた。（3月31日現在、15件の報告有り）	2
	3 SD活動 事務局職員研修	2016年5月～3月まで。 事務局職員研修を実施した。	4

	根拠資料の名称
根拠資料	1 平成28年度新任者研修について
	2 SD研修会開催要項
	3 ハラスメント研修会開催について
	4 第2回 教育研究活動に関する学内研修会2016
	5 平成28年度FD研修会の開催について
	6 平成28年度FD・SD研修会の開催について
	7 FD・SD委員会報告
	8 事務局職員研修SD実施要項
	9 SDセミナー開催要項
	10 SD研修会開催要項

3 来年度の取組事項

1. FD研修会を年間3回程度実施する。
 2. 全学的な取組として授業の相互参観を実施する。
 3. SD研修会を年間2回程度実施する。
-

学生部

▷学生課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 障がいのある学生への支援に、総合的な支援体制を検討・構築する。
2. 工事に伴い駐車場が制限されるので、既存の施設の効率的な利用ができるよう調整を図り、交通安全指導を徹底する。
3. 健康衛生指導を計画的に実施し、学生生活の基盤となる健康管理に積極的に取り組ませる。
4. 学生の生活満足度80%を目標に、大学生活の充実・改善に取り組む。特に、施設・設備の充実・活用など教育環境の整備に努める。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 障がいのある学生への支援体制を検討・構築する。	エレベーターや障害者用のトイレ等の設置を含め設備面では充実してきている。	3
	2 駐車場を含む交通安全指導を徹底する。	正門付近の警備員による指導や、年2回の車通学OR・年1回の交通安全講習会等の指導で、本年は事故届の件数が8件と少なかった。	4
	3 計画的な健康衛生の支援を実施する。	有資格職員が常駐し、教職員も含めた健康診断の充実、保健室における危機管理対応マニュアルの完成、保健室だよりの作成などさらに充実した。	4
	4 学生の生活満足度を上げる為に大学生活の充実・改善に取り組む。	年6回の学生生活支援委員会を開催し、学生相談・学生自治活動・大学祭・学生の渡航に関する事等の学生全般の支援に努めた。	4
	◇ ハラスメントの防止と対策について検討する。	教職員にはFD・SDの研修会の一環としてハラスメント研修会を開催し、学生にもハラスメント講習会を実施した。	4

	根拠資料の名称
根拠資料	1 2期工事完成図面
	2 講習会資料、車通学の心得
	3 救急応急処置対応マニュアル、健康診断票、保健室だより
	4 学生生活支援委員会議事録、海外渡航届
	5 ハラスメント研修会資料、ハラスメント講習会資料

3 来年度の取組事項

1. 施設を含めた障がいを持った学生の支援を充実させる。
2. 駐車場を含む交通安全指導を行う。
3. 計画的な健康衛生支援を行う。
4. 学生自治会活動の規約等を整備する。
5. ハラスメント関係の予防と対策及び規約の改正を実施する。
6. 海外留学・渡航等に関する対応を充実させる。
7. 地域や他の大学との連携に努める。

学生部

▷入試広報課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 接触者データの一元管理と分析
接触者(資料請求者、OC来場者、ガイダンス参加者等々) データを一元管理するためのデータベースを作成し、多角的に分析をしながら募集活動を展開する。
2. 高校訪問の実施方法見直しと強化
接触者のデータベースに高校訪問の記録を統合し管理することで、訪問時期、訪問エリア等を数字に基づいて見直し、強化する。
3. 募集要項(願書)のリメイク
入試業務を見直し、事務の効率化を図る。検定料の支払い方法を為替から振込みに変更できないか検討する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 接触者(資料請求者、OC来場者、ガイダンス参加者等々) データを一元管理するためのデータベースを作成し、多角的に分析をしながら募集活動を展開する。	OC来場者の収集データの項目に住所を加えたことで、その後の募集活動にデータを有効利用できたことは大きい。データベースの構築については、数社からの提案を比較検討し、1社に確定することができた。運用開始が次年度(2017年度)にズレ込んだが、スタッフの研修も終了し、現在、運用に向け準備中。	3
	2 接触者のデータベースに高校訪問の記録を統合し管理することで、訪問時期、訪問エリア等を数字に基づいて見直し、強化する。	高校訪問については、年間スケジュールを立てた上で実施した。上記のデータベース導入が次年度にズレたことで、数字に基づいた見直しは精度を欠いたが、可能な範囲で見直しを行った。変更点は、訪問者を数名に絞り、訪問の目的等の情報共有をするためオリエンテーションを実施し、訪問活動を開始したこと。また、年間を通じ、同じスタッフが同じ高校を訪問することを軸として、高校との信頼関係を築くことを強化した。	3
	3 入試業務を見直し、事務の効率化を図る。検定料の支払い方法を為替から振込みに変更できないか検討する。	大学・短大共に全面改訂をした。受験生にとって、よりわかりやすく、扱い易いことをめざして、レイアウト、文字サイズ、文字色、願書の形状等も変更。同時に、検定料の支払い方法を為替から銀行振込みに変更できたことは、事務部の業務効率化にも繋がる。また、制作費についても、大学・短大合わせ、約11万円のコスト削減が実現できた。	4

根拠資料の名称	
根拠資料	1 データベース企画書(提案各社分)
	2 広報訪問スケジュール表、訪問報告書
	3 山口芸術短期大学募集要項2017

3 来年度の取組事項

1. 接触者データベースの運用開始
大学・短大共に接触者のデータを一元管理し、戦略的な募集活動を行う。また、接触者情報と高校訪問情報を連動させることで、外回りの活動を効率化する。
 2. 広報ツール・媒体の改良
「山口芸術短期大学案内」の一部見直しとセールスポイントを明確にした広報を展開する。
 3. オープンキャンパスの見直し
新校舎の完成を受けて、プログラムおよび実施方法の見直しを学科と共に行う。また、オープンキャンパス来場者の出願率を上げる工夫を多角的に検討、実施する。（データベースの活用等）
 4. インターネット出願の検討
全国の私立大学の約55%がネット出願に移行している現状を踏まえ、本学でも実施に向け検討を始める。
-

学生部

▷学術情報センター(図書館)

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. 山口県大学共同リポジトリ「維新」へ参加することにより情報収集や発信を推進する。
2. 学生の図書館活用を活性化する。
3. 新図書館移転に係る基盤づくりを検討する。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 山口県大学共同リポジトリ「維新」へ参加する。	5月に申請、6月に受諾された。 9月に公開し、本学の教育研究活動を引き続きインターネット上に公開することとともに、情報収集等を一層促進した。	4
	アンケートの実施・分析を行う。	学生に対して、本学図書館に関する要望等を調査し、分析結果をもとにさらなる充実・改善に取り組んでいる。	3
	ML連携展示を通して図書館活用への動機付けを行う。	A棟展示ホール（後半2階展示室に移動）において、図書館所蔵のしかけ絵本等を展示することにより、学生の図書館への興味関心を喚起した。 また、保育学科の教員・学生制作の人形も同時展示し、絵本と保育の相互関連を深めた。	4
	図書館検索OPACを周知する。	学生掲示板等により、OPACの利用方法を周知徹底した。	3
3	新図書館について検討する。	図書館運営委員会を7回開催し、新図書館の円滑な移転に向けた準備を進めている。	4

	根拠資料の名称
根拠資料	1 平成28年度起案（管理番号1）：『山口県大学共同リポジトリ維新への参加について』
	2 平成28年10月実施：『図書館に関するアンケート』
	3 平成28年度山口県大学ML連携特別展：共通テーマ『はぐくむ』、独自テーマ『こころをはぐくむ』
	4 平成28年度起案（管理番号3）：『山口県大学ML連携特別展参加について』
	5 平成28年度起案（管理番号4）：『山口県大学ML連携特別展の展示概要について』
	6 平成28年度起案（管理番号10）：『平成28年度山口県大学ML連携特別展展示概要について』
	7 『図書館OPACの使い方』
	8 平成28年度図書館運営委員会資料

3 来年度の取組事項

1. 新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりを推進する。
 - ①アクティブ・ラーニングコーナーやグループ学習室等の効果的な活用方法の検討等
 - ②図書館検索OPACのさらなる周知
2. 他の図書館等との連携を推進する。

学生部

▷学術情報センター(情報教育支援センター)

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. サイバーセキュリティを確保する。
2. 校舎新設に伴い、ICT機器を効果的に設置する。
3. ICT機器を活用したアクティブ・ラーニング等を通して教育成果を向上させる。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 サイバーセキュリティ確保に向けて次の取組を実施する。 ①脆弱性の対応 ②他の教育機関等で発生している情報セキュリティに係る事故の周知	①次の脆弱性3点に係る必要な対策を実施した。 ・遠隔からの攻撃によって異常終了し、サーバがサービス不能状態となる。 ・アプリケーションプログラムが異常終了する。 ・攻撃者によってパソコンを制御され、様々な被害が発生する可能性がある。 ②他の教育機関等で発生している情報セキュリティに係る事故を周知することで、本学での情報セキュリティ事故を未然に防止した(計17回：H29.3.31現在)。	4
	2 ICT機器を効果的に設置する。	新校舎に次のICT環境(→設置場所)を整備した。 ・壁掛けプロジェクター(電子黒板)の設置 →学生ホール、A205、A302、A305 ・プロジェクター等AV装置の設置 →A203、A204、A301、A302、A303、A304、A400、A401、A402 ・無線LANアクセスポイントの整備 →学生ホール、A205、A305、A302、A400	4
	3 ICT等の活用に関するアンケート調査を実施する。	授業におけるICTの活用について、教員(非常勤・嘱託を除く)の実態調査を行った。	3

	根拠資料の名称
根拠資料	1 プロジェクト完了報告書
	2 脆弱性に関する通知(CVE-2016-2776)
	3 脆弱性に関する通知(Symantec Endpoint Protection Multiple Security Issues)
	4 電子掲示板(サイボウズ)掲示内容
	5 A棟図面
	6 ICT等の活用に関する調査票及び集計結果

3 来年度の取組事項

1. サイバーセキュリティの確保に向けた取組みを継続して実施する。
2. アクティブ・ラーニングへのICT等を活用した授業の活性化に向け関係委員会との連携を図る。

学生部

▷連携推進課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

1. これまでの自己点検・評価を勘案しながら、自己点検・評価の部署及び内容(自己点検評価の数値化、次年度の目標設定等)について検討する。
2. PDCAサイクルで実施し、それを報告する。
3. 第三者評価(平成31年度)に向けて、自己点検・評価の取組み報告書を評価機関の基準に合わせて作成する。

2 自己点検・評価

(1)本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 自己点検・評価の部署及び内容の見直しについて検討する。	本学の事務組織図をもとに実施部署を整理し、評価機関の評価基準にもとづき、評価の数値化を図った。	3
	2 PDCAサイクルで実施する。	来年度の事業計画書との互換性をもたせ、PDCAサイクルにもとづいて、自己点検・評価を実施できる体制を整えた。	3
	3 第三者評価に向けての取組みを行う。	これまでの自己点検・評価と、評価機関における自己点検・評価の項目を整理した。また、第三者評価で必要となるエビデンスの整理及び収集を実施した。	3

	根拠資料の名称/保管場所等
根拠資料	1 自己点検評価委員会及び自己点検・評価実施委員会配布資料
	2 自己点検・評価シート

3 来年度の取組事項

1. 第三者評価の評価項目及び基準が確定していることから、本学の教育研究活動を十分に反映させ、報告書の取りまとめを行う。
2. 平成30年度の事業計画策定に向けた平成29年度自己点検・評価が円滑に行えるよう努力する。

事務部

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- 28年4月より第3期工事が着工されるが、新規業者となるため、設計管理業者と共に無事故で円滑に工事がなされる様に連携を強化する。
- 29年度より予定されている第4期工事(図書館移設)についても学術情報センターや図書館運営委員会並びに各部署担当者と連携し検討を進めていく。
- 28年度の教育機器備品購入については、第3期工事との兼ね合いを調整しつつ、設備充実計画により担当者とのヒアリングや部内検討を重ねながら購入計画を立案する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
今年度の取組	1 第3期工事における工事業者・設計管理業者との連携強化を図る。	工事業者・設計管理業者と定期的に工程会議を実施し、連携を強化した。さらに工程内容を定期的に学内各部署にフィードバックし、学内連携も強化した。	3
	2 第4期工事(図書館移設)に伴う各部署との連携強化を図る。	全5回開催された図書館運営委員会に事務部施設担当者が参加し、図書館移設に伴う検討を行った他、担当者間の打合せを行い連携を強化した。	3
	3 28年度の教育機器備品購入について購入計画を立案する。	各部署からの意見集約を行い、各学科・部署担当者からのヒアリング及び第3期工事の状況を勘案しながら購入計画を立案した。	3

	根拠資料の名称
根拠資料	1 工程会議資料
	2 図書館運営委員会資料
	3 設備充実計画資料

3 来年度の取組事項

- 5月まで予定されている第3期工事残工事(外溝部分)の円滑な取組みを行う。
- 29年度に予定されている第4期工事(図書館移設工事)に向けた取組みを強化する。
- より円滑な教育活動に向けて29年度の設備充実計画を立てる。